

一経営体における経営の多角化について

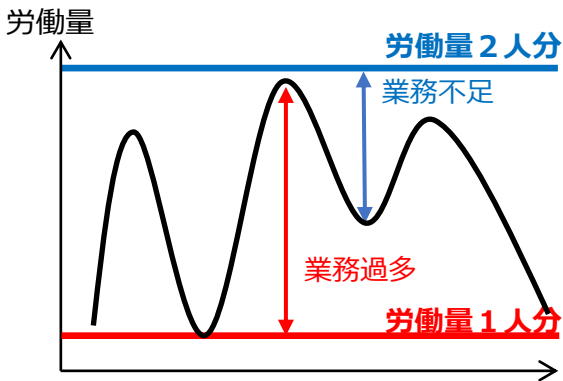
1. 処理加工施設における人材の確保、労働力の有効活用

ジビエ処理加工は人手によるため、人材確保が不可欠だが**人材が集まりにくい**。また、捕獲鳥獣の特性上、**受入れが少ない時期は労働力を持て余す**といったミスマッチも起きやすいという課題の解決のために、「地域おこし協力隊」など外部からの人材の確保のほか、**経営の多角化により労働力を有効活用**し業務量を平準化する取組も出てきている。

○ 処理加工施設の課題（人材面）

- ・ 恒常的に人手不足（施設が立地する地方では人材が見つからない）。
- ・ 限られた人員では、長時間労働となり、ますます人が集まりにくい。
- ・ 労働が少ない（搬入が少ない）時期に合わせると人手が足りず、多い時期に合わせると労働力を持て余すといった問題もある。

（時期による労働量の変動のイメージ）



経営多角化による労働力の有効活用

外部人材の確保

食肉製造 + 加工品・サービス

- ・ ジビエの解体処理のほか、ソーセージ、レトルトカレー等の加工品やクラフト製品等の製造・販売を実施。
- ・ レストランを併設し、ジビエ料理を提供。



ジビエショップ

食肉製造 + 農業

- ・ 地域で生産に力を入れているアスパラガスを栽培。
- ・ 捕獲が少なく解体頭数も少ない春頃が農繁期にあたる。



農園

地域おこし協力隊

- ・ 市町村が雇用（生活費を支給）。
- ・ 任期は3年間、地域の状況や課題に応じて様々な取組を行う。

＜活用した施設の声＞

- ・ 最初、未経験だったが、指導の後、今では中核人材（任期後も定着）。

外国人材（特定技能外国人）

- ・ 特定技能制度（1号は最大5年）
- ・ 加工品製造等も行えば、飲食料品製造業分野で利用可能。

＜活用した施設の声＞

- ・ 登録支援機関のサポートで、制度利用は思ったほど難しくなかった。

特定地域づくり事業協同組合

- ・ 複数の事業者で組合を設立、組合が職員を雇用し各事業所に派遣。

STEP1

きっかけ（背景・課題）

- ・ ジビエ処理施設は農作物被害を減らすための施設なので、**農業の担い手不足の一助として**、自らも農業をやろうと思った。
- ・ 経営の安定化を図り、**継続して事業を行える**よう、農業を兼業してやろうと思った。

STEP2

主な取組

- ・ ジビエ処理施設の運営のほか、アスパラガス、白ネギ等を生産。
- ・ 従業員はジビエの解体・処理を行う人と農業を行う人で分かれており、**ジビエ処理施設の手が離れた時に農業を手伝う**体制にすることで、**労働時間の平準化**につなげている。
- ・ 屋台等で出店するときに、ジビエだけでなく、施設で生産した規格外の野菜と一緒に提供することで**付加価値を高める**ことが出来た。

STEP3

取組の成果

- ・ ジビエだけでなく、農業による収入を得ることで**安定した収入を確保**することが出来た。

<施設情報>

- ・ 取扱獣種：シカ
- ・ 民設・民営
- ・ 止め刺しから1時間以内に搬入した雌鹿か2歳までの雄鹿を食肉とすることで、高品質なお肉を提供
- ・ 食肉のほかジビエペットフードも販売
- ・ 農業の担い手不足の一助として、処理加工施設の運営だけでなく、アスパラガスや白ネギ等の生産を実施



農場の風景



ジビエとアスパラガス